

機密

本令ハ昭和二十一年一月一日以後ノ金銀貨等金二付ニ付テ施行スル
附則
附則第三項ニ附ス
昭和二十一年三月二十日施行
附則
附則

閣内第六九號
起昭和二十一年三月二十日
閣議決定昭和二十一年三月二十日施行
裁可昭和二十一年三月二十日行
昭和三十二年三月三十日
公布

内閣總理大臣 長

内閣書記官

内閣副書記官長

外務大臣 長
第一補外大臣 長
木東範大臣
松本國務大臣 長

内務大臣 長
司法大臣 長
農林大臣 長

大藏大臣 長
文部大臣 長
商工大臣 長
厚生大臣 長
運輸大臣 長
第一補大臣 長

大東亞戰爭從軍記章令廢止等ノ件
右樞密院ノ御諮詢ヲ經テ御下付ニ付同院

右樞密院ノ御諮詢ヲ經テ御下付ニ付同院

0000 0455

上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

上諭案

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大東亞戰爭從
軍記章令廢止等ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ
公布セシム

御名 御璽

昭和二十一年三月二十九日

内閣總理大臣
第一復員大臣

第二復員大臣

(樞密院上奏ノ通)

内閣

上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然

内閣
閣

上諭案

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大東亞戰爭從
軍記章令廢止等ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ
公布セシム

御名 御璽

昭和二十一年三月一日

(樞密院上奏ノ旨)總理大臣

第一復員大臣

第二復員大臣

臣等

大東亞戰爭從軍記章令廢止等ノ件諮
詢ノ命ヲ恪シ本月二十七日ヲ以テ審議ヲ盡
シ之ヲ可決セリ乃チ謹テ上奏シ更ニ
聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和二十一年三月二十七日

樞密院議長男爵臣

鈴木貫太郎

勅令第百五十五號

左ニ掲グル勅令ハ之ヲ廢止ス

大東亞戰爭從軍記章令

支那事變從軍記章令

支那事變記念章令

附
則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

[illegible]

三月十九日御下付

內閣書記官

法制局長官

魚

古

大東亞戰爭從軍記章令廢止等件

起案上申ス依テ別紙ノ通閣議決定セラレ可然ト
認ム

迨テ本件樞密院官制第六條第十號ノ
勅令ナルヲ以テ樞密院ニ御諮詢相成可然

ト認ム

勅令案

別紙ノ通

(起案用紙青四號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大東亞戰爭從軍記章令
廢止等ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

昭和 年 月 日

勅令第 號

内閣總理大臣
第 一 復 員 大 臣

左ニ掲グル勅令ハ之ヲ廢止ス

大東亞戰爭從軍記章令

支那事變從軍記章令

支那事變記念章令

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ公府ノ日ヨリニシテ施行ス

抑限

支那軍艦司令官第六條第十號ノ
支那海軍艦艇司令官第六條第十號ノ
大東亞海軍艦艇司令官第六條第十號ノ

本令ハ公府ノ日ヨリニシテ施行ス

陸軍部

陸軍部
大東亞海軍艦艇司令官第六條第十號ノ

昭和 年 月 日

海軍部

海軍部
大東亞海軍艦艇司令官第六條第十號ノ

海軍部
大東亞海軍艦艇司令官第六條第十號ノ

理由

終戦后ノ情勢ニ鑑ミ大東亞戦争従軍記章令等ヲ
廢止スルノ要アルニ依ル

五里

法蘭西第六号

三十

五
口
號

昭和二十二年三月九日 内閣書記官長

內閣書記官

內閣總理大臣

賞勳局總裁

客年十二月十五日附聯合國總司令部覺書
ノ結果大東亞戰爭從軍記章令ニ付テ「大東
亞戰爭」ナル名稱ヲ變更スルノ要アルニ至リ候
處現下ノ狀況ニ鑑ミ大東亞戰爭從軍記章
令ハ之ヲ廢止シ併セテ支那事變記念章令
ヲ廢止シ竝ニ支那事變從軍記章ニ付テハ
今後之が授與ヲ廢スルコトニ致度別紙勅令

內閣官房事務課

213.1[9]

受

案ヲ具シ此段上申ス

東東

案

勅令第

號

第一條 左ニ掲グル勅令ハ之ヲ廢止ス

大東亞戰爭從軍記章令

支那事變記念章

第二條 支那事變從軍記章令中左ノ通改正ス

第三條 舊ヲ左ノ如ク改ム

但シ昭和十五年四月二十九日以後左ノ各號ノ一二該當スルニ至

リタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

附
則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

內閣

案ヲ具シ此段上申ス

内

閣

本令ハ公取、日付リ文ヲ流布ス

附 則

一、本令ハ施行期日ニ至リテ施行ス

二、本令ハ施行期日ニ至リテ施行ス

三、本令ハ施行期日ニ至リテ施行ス

四、本令ハ施行期日ニ至リテ施行ス

五、本令ハ施行期日ニ至リテ施行ス

六、本令ハ施行期日ニ至リテ施行ス

七、本令ハ施行期日ニ至リテ施行ス

八、本令ハ施行期日ニ至リテ施行ス

案

理 由

現下ノ状況ニ鑑ミ大東亞戦争従軍記念章令及支那事變従軍記念章令ヲ廢止シ竝ニ支那事變記念章ハ今後之ガ授與ヲ廢スルヲ適當ト認メラルルニ依ル

内

閣

内

閣

本件ハ、昭和二十年四月二十日、支那事變從軍記章ハ、今次戦争ニ關スル勤務ニ従事シ死歿シタル者約三十万人ニ對シ授與ノ裁可ヲ經タルモ製作遅延セル爲未傳達ノ現状ニアリ、支那事變從軍記章ハ昭和十五年四月二十八日迄ニ從軍シタル者ノ全部及軍務ヲ補助シ功アリシ者ノ一割並ニ昭和十五年四月二十九日以後從軍シタル者ニテ大東亞戦争從軍記章ヲ授與セラレサル死歿者ノ一部ニ對シ之ヲ授與シ、支那事變從軍記章ハ未ダ授與ノ奏請ヲ爲スノ遲ビニ至ラズシテ今日ニ至リタリ、然ルニ現下ノ狀勢ニ於テ之等大東亞戦争從軍記章、支那事變從軍記章及支那事變從軍記章ヲ今後授與スルハ考慮ヲ要スルノミナラズ、昭和二十年一月一日附聯合國總司令部覺書ニ依リ「大東亞戦争」ナル文句ヲ一切ノ公文書ニ於テ使用シ得ザルニ至リ、大東亞戦争從軍記章ハ右覺書ニ依リ少クモ名將ヲ變更スルヲ要スルニ至リタリ、依テ此ノ際大東亞戦争從軍記章令及支那事變從軍記章令ハ之ヲ廢止シ、支那事變從軍記章ニ付テハ昭和十五年四月二十九日以後從軍シタル者ニハ授與セサルコトニ改メ之等從軍記章及記念章ノ授與ヲ今後廢止スルヲ適當ト認ム

照
由

支那事變從軍記章ハ今次戦争ニ關スル勤務ニ従事シ死歿シタル者約三十万人ニ對シ授與ノ裁可ヲ經タルモ製作遅延セル爲未傳達ノ現状ニアリ、支那事變從軍記章ハ昭和十五年四月二十八日迄ニ從軍シタル者ノ全部及軍務ヲ補助シ功アリシ者ノ一割並ニ昭和十五年四月二十九日以後從軍シタル者ニテ大東亞戦争從軍記章ヲ授與セラレサル死歿者ノ一部ニ對シ之ヲ授與シ、支那事變從軍記章ハ未ダ授與ノ奏請ヲ爲スノ遲ビニ至ラズシテ今日ニ至リタリ、然ルニ現下ノ狀勢ニ於テ之等大東亞戦争從軍記章、支那事變從軍記章及支那事變從軍記章ヲ今後授與スルハ考慮ヲ要スルノミナラズ、昭和二十年一月一日附聯合國總司令部覺書ニ依リ「大東亞戦争」ナル文句ヲ一切ノ公文書ニ於テ使用シ得ザルニ至リ、大東亞戦争從軍記章ハ右覺書ニ依リ少クモ名將ヲ變更スルヲ要スルニ至リタリ、依テ此ノ際大東亞戦争從軍記章令及支那事變從軍記章令ハ之ヲ廢止シ、支那事變從軍記章ニ付テハ昭和十五年四月二十九日以後從軍シタル者ニハ授與セサルコトニ改メ之等從軍記章及記念章ノ授與ヲ今後廢止スルヲ適當ト認ム

說
明

大東亞戦争從軍記章ハ今次戦争ニ關スル勤務ニ従事シ死歿シタル者約三十万人ニ對シ授與ノ裁可ヲ經タルモ製作遅延セル爲未傳達ノ現状ニアリ、支那事變從軍記章ハ昭和十五年四月二十八日迄ニ從軍シタル者ノ全部及軍務ヲ補助シ功アリシ者ノ一割並ニ昭和十五年四月二十九日以後從軍シタル者ニテ大東亞戦争從軍記章ヲ授與セラレサル死歿者ノ一部ニ對シ之ヲ授與シ、支那事變從軍記章ハ未ダ授與ノ奏請ヲ爲スノ遲ビニ至ラズシテ今日ニ至リタリ、然ルニ現下ノ狀勢ニ於テ之等大東亞戦争從軍記章、支那事變從軍記章及支那事變從軍記章ヲ今後授與スルハ考慮ヲ要スルノミナラズ、昭和二十年一月一日附聯合國總司令部覺書ニ依リ「大東亞戦争」ナル文句ヲ一切ノ公文書ニ於テ使用シ得ザルニ至リ、大東亞戦争從軍記章ハ右覺書ニ依リ少クモ名將ヲ變更スルヲ要スルニ至リタリ、依テ此ノ際大東亞戦争從軍記章令及支那事變從軍記章令ハ之ヲ廢止シ、支那事變從軍記章ニ付テハ昭和十五年四月二十九日以後從軍シタル者ニハ授與セサルコトニ改メ之等從軍記章及記念章ノ授與ヲ今後廢止スルヲ適當ト認ム

内

閣

第一 第二 第三 第四 第五 第六 第七 第八 第九 第十 第十一 第十二 第十三 第十四 第十五 第十六 第十七 第十八 第十九 第二十 第二十一 第二十二 第二十三 第二十四 第二十五 第二十六 第二十七 第二十八 第二十九 第三十 第三十一 第三十二 第三十三 第三十四 第三十五 第三十六 第三十七 第三十八 第三十九 第四十 第四十一 第四十二 第四十三 第四十四 第四十五 第四十六 第四十七 第四十八 第四十九 第五十 第五十一 第五十二 第五十三 第五十四 第五十五 第五十六 第五十七 第五十八 第五十九 第六十 第六十一 第六十二 第六十三 第六十四 第六十五 第六十六 第六十七 第六十八 第六十九 第七十 第七十一 第七十二 第七十三 第七十四 第七十五 第七十六 第七十七 第七十八 第七十九 第八十 第八十一 第八十二 第八十三 第八十四 第八十五 第八十六 第八十七 第八十八 第八十九 第九十 第九十一 第九十二 第九十三 第九十四 第九十五 第九十六 第九十七 第九十八 第九十九 第一百

陳金藥百四十二號
十月六日二十一日

二 戰地ニ臨マザルモ動員部隊若ハ戰爭ノ爲臨時編成シタル部隊ニ編入セラレ又ハ戰爭ニ關スル軍務ニ從事シタル陸海軍軍人軍屬

三 戰爭ニ關スル軍務ニ從事シタル陸海軍官用船舶又ハ病院船ノ乗組船員

四 陸海軍官憲ノ監督ヲ受ケ戰爭ニ關スル傷病者ノ救護ニ從事シタル者

前項各號ノ一ニ該當スル者ト雖モ其ノ業務ノ種類及功績ノ程度ニ依リ從軍記章ヲ授與セザルコトアルベシ

第四條 戰爭ニ關スル軍務ヲ幫助シ特ニ功績アル者又ハ許可ヲ得テ從軍シタル者ニハ特ニ從軍記章ヲ授與スルコトアルベシ

第五條 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ從軍記章ヲ授與セズ但シ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者及陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依リ一年未満ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニハ其ノ情狀ニ依リ之ヲ授與スルコトアルベシ

第六條 懲戒ノ裁判又ハ處分ニ依リ免官又ハ免職セラレタル者ニハ從軍章ヲ授與セズ但シ其ノ情狀ニ依リ之ヲ授與スルコトアルベシ

第七條 前二條ノ規定ハ處刑、免官又ハ免職ノ後第三條又ハ第四條ノ

B5 タイプライター用紙

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

規定ニ該當スル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第八條 從軍記章ヲ授與セラルベキ者ニ對シテハ其ノ授與前死亡シタルトキト雖モ仍之ヲ授與ス

第九條 從軍記章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ遺族之ヲ保存スルコトヲ許ス

大東亞戰爭從軍記章ノ圖略

B5 ダイブライター用紙

大日本帝國政府

朕樞密顧問、諮詢ヲ經テ支那事變記念章令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

支那事變記念章令

昭和十七年九月二十六日
勅令第六百五十八号

第一條 支那事變記念ノ表章トシテ特ニ記念章ヲ設ク

第二條 記念章ノ圖式左ノ如シ

章 青銅圓形徑三釐トシ表面ニ菊御紋及櫻花ノ因ヲ

表シ裏面ニ支那事變記念章ノ文字ヲ識ス

環 一青銅圓形トス

綬 織地幅三釐大綬トシ中央赤色、其ノ左右内側ヨリ

各紅色、香色、納戸色、濃桔梗色トス

記念章ハ綬ヲ用ヒテ左肋ニ佩ブ

第三條 記念章ハ支那事變遂行ニ関シ特別ノ貢獻ヲ爲シ

内閣

海軍省

又東亞細亞海軍諸軍ノ圖
儀此對 海軍諸軍ハ本人ニ對シテ
小イテ 勳子也云々對與ス
儀八種 海軍諸軍ハ對與スハハ
恩賞ニ對當スハハ二種ニハハ
恩賞ニ對當スハハ二種ニハハ

大日本帝國政府

タル者ニ之ヲ授與ス但シ支那事變從軍記章ヲ授與セラル 者ニハ之ヲ授與セズ	第四條 左ノ各号ノ一ニ該當スル者ニハ記念章ヲ授與セズ但シ 處刑、免官、又ハ免職ノ後前條ノ規定ニ該當スル者ニ 付テハ此ノ限ニ在ラズ	一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者	ニ 懲戒ノ裁判又ハ處分ニ依リ免官又ハ免職セラレタル者	第五條 記念章ヲ授與セラルベキ者ニ付シテハ其ノ授與前死セシ タルトキト仍之ヲ與授雖モス	第六條 記念章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ遺族之ヲ 保存スルコトヲ許ス	略 因
--	---	-------------------------	-----------------------------------	--	---	------------

大日本帝國政府

支那事變從軍記章令抄

昭和十四年勅令第四百九十六号
改正昭和十九年第四一八号

第三條 從軍記章ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ之ヲ授與ス但シ昭和十五年

四月二十九日以後左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタル者ニシテ大東亞戰爭

從軍記章ヲ授與セラルモノニ之ヲ授與セズ

一 事變地ニ在リテ軍務ニ從事シ又ハ軍事ニ關スル特別ノ任務ヲ受ケテ
事變地ニ往復シタル陸海軍軍人軍屬及文官

二 事變地ニ臨マザルモ動員部隊若ハ事變ノ爲臨時編成シタル部隊

ニ編入セラレ又ハ事變ニ關スル軍務ニ從事シタル陸海軍軍人軍屬

三 事變ニ關スル軍務ニ從事シタル陸海軍官用船舶又ハ病院船ノ

乗組船員

四 陸海軍官憲ノ監督ヲ受ケ事變ニ關スル傷病者ノ救護ニ從事シタル者

前項各號ノ一ニ該當スル者ト雖モ傭役人夫ノ類又ハ之ニ準ズベキ下級船員

等ニ在リテ特殊ノ軍務ヲ服シ且功績显著者ニ非ザルハ從軍記章ヲ授與セズ

大日本帝國憲法
第一章 天皇
第一條 天皇為日本國之元首、總攬大權、行使之、其權限如左
第二條 天皇之命令、國務卿副署之、以行其力、
第三條 天皇之命令、國務卿副署之、以行其力、
第四條 天皇之命令、國務卿副署之、以行其力、
第五條 天皇之命令、國務卿副署之、以行其力、
第六條 天皇之命令、國務卿副署之、以行其力、
第七條 天皇之命令、國務卿副署之、以行其力、
第八條 天皇之命令、國務卿副署之、以行其力、
第九條 天皇之命令、國務卿副署之、以行其力、
第十條 天皇之命令、國務卿副署之、以行其力、

大東亞戰爭從軍記章令廢止等ノ件諮詢ノ
命ヲ格ニ本月二十七日ヲ以テ審議ヲ盡シ之ヲ
可決セリ乃チ謹テ上奏シ更ニ
聖明ノ採擇ヲ仰ク
昭和二十一年三月二十七日
樞密院議長男爵 鈴木貫太郎

大東亞戰爭從軍記章令廢止等ノ件諮詢ノ

命ヲ格ニ本月二十七日ヲ以テ審議ヲ盡シ之ヲ

可決セリ乃チ謹テ上奏シ更ニ

聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和二十一年三月二十七日

樞密院議長男爵 鈴木貫太郎

大東亞戰爭從軍記章令廢止等ノ件諮詢ノ

命ヲ格ニ本月二十七日ヲ以テ審議ヲ盡シ之ヲ

可決セリ乃チ謹テ上奏シ更ニ

聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和二十一年三月二十七日

樞密院議長男爵 鈴木貫太郎

大東亞戰爭從軍記章令廢止等ノ件諮詢ノ

命ヲ格ニ本月二十七日ヲ以テ審議ヲ盡シ之ヲ

可決セリ乃チ謹テ上奏シ更ニ

聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和二十一年三月二十七日

樞密院議長男爵 鈴木貫太郎

大東亞戰爭終結後
の東洋と南洋

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

區谷記